





○通知  
○報知  
セシ  
ルラ

ス可キ者ト判決シタル時ハ書記ヨリ故障アリタルト及ヒ其事件ヲ公判ニ付スヘキ日時ヲ故障ノ對手人ニ通知スル爲メ呼出狀ヲ送達ス可シ但其送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ○又公判ニ付ス可キ日時ヲ其前日ニ故障ノ申立人ニ報知ス可シ  
第三百三十四條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ第三百二十六條ヨリ第三百三十條マテノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ○其裁判ニ關席シタル者ハ故障ヲ爲スヲ得ス  
其故障ノ裁判ニ關席シタル者ハ其申立人ト對手人トニ拘ハラス復ヒ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ禁ス是レ即チ故障ノ裁判ニ對シ復タ故障ヲ許ス時ハ其際限ヲキチ以テナリ

第三百三十五條 犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ○又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ  
第三百三十六條 被告事件違警罪ニシテ且證憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ  
第三百三十七條 被告事件重罪又ハ輕罪ナル時ハ管轄違フ言渡ヲ爲シ其事件ヲ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ但被告人ニ對シ拘留狀ヲ發スルヲ得  
第三百三十八條 違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ



○擬律ノ錯誤  
 被告ノ人ナリニ  
 處スル法律ヨリニ  
 即チ法律ヨリニ  
 メタルヨリニ  
 額ノ科料ナ言  
 渡シタルナ言  
 云フナ  
 ○無効ノ記載  
 アリタル規則  
 云々行セヌ又  
 ハ私訴ノ裁判  
 ナ先ニシテ公  
 訴スル裁判キ  
 云ニ如キナ後

對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴ス  
 ルヲ得○一被告人ハ拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケ  
 タル時○二民事原告人被告人及ヒ民事擔當人  
 ハ要償ニ付テノ言渡民事上治安裁判所ノ終審  
 ノ金額ヲ超過シタル時○三檢察官其他訴訟關  
 係人ハ上ニ記載シタル原由アラサル時ト雖  
 管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規  
 則ニ背キタル時  
 第三百三十九條 控訴ヲ爲サントスル者ハ原  
 裁判所ノ書記局ニ其申立書ヲ差出ス可シ但其  
 申立ノ期限ハ對審裁判ニ付テハ言渡ヨリ三日  
 内又タ關席裁判ニ付キ故障アラサル時ハ本人

又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日  
 内トス○控訴ヲ爲スノ申立アリタル時ハ書記  
 ヨリ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ  
 第三百四十條 訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢  
 察官ヨリ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之  
 ナ送致ス可シ○若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ  
 對手人ナル時ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察  
 官ニ其意見書ヲ差出ス可シ  
 第三百四十一條 控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ於  
 テハ書記局ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發  
 シタル後其裁判ニ取掛ル可シ○呼出狀ノ送達  
 ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ○



証人ハ呼出狀ヲ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出可シ  
 第三百四十二條 控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲ス可シ得  
 但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ル可シ得  
 第三百四十三條 控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ  
 ○檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル証人又ハ始審ニ於テ陳述シタル証人ヲ呼出ス可シ得ス  
 第三百四十四條 控訴ヲ受クタル裁判所ニ於

○被告ノミ  
 控訴云々  
 人ノ利益ノ爲  
 故ナリ

テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ  
 ○被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡ス可シ得ス  
 ○私訴ニ付テノ控訴ノ裁判ハ通常民事ノ規則ニ從フ  
 第三百四十五條 第三百三十一條以下ノ規則ハ控訴ノ關席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス  
 第三百四十六條 檢察官其他訴訟關係人ハ違警罪事件ノ終審ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲ス可シ得ス

本條ハ違警罪事件ノ如キ輕少ナル裁判ニ對シテモ尙ホ上告ノ途ヲ開キ以テ其裁判ノ法式ニ背キタル等ヲ改良セシム然レモ上告ハ終審ニシテ且ツ對審ナル裁判言渡ニ對スル



ニ非サシハ之ヲ  
爲スヲ得ス

第三章 輕罪公判

第三百四十七條 輕罪裁判所ニ於テハ左ノ條  
 件ニ因テ公訴ヲ受理ス○一檢察官ノ請求ニ因  
 リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀○  
 二豫審判事輕罪裁判所會議局又ハ上等ノ裁判  
 所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡  
 第三百四十八條 呼出狀ニ付テハ第三百二十  
 二條第三百二十三條ノ規則ニ從フ  
 第三百四十九條 被告事件罰金ノ刑ニ該ル可  
 キ時ハ代人ヲシテ出廷セシムルヲ得可キ旨  
 ナ呼出狀ニ記載ス可シ○民事原告人及ヒ民事

擔當人ハ代人ヲシテ出廷セシムルヲ得

第三百五十條 証人ハ呼出狀ノ送達ト出廷ト  
 ノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可  
 シ  
 第三百五十一條 第三百二十四條ノ規則ハ豫  
 審ヲ經サル輕罪事件ニモ亦之ヲ適用ス  
 第三百五十二條 檢察官ハ裁判長ヨリ被告人  
 ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問ヒタル  
 後被告事件ヲ陳述ス可シ○民事原告人ハ被害  
 事件ヲ證明ス可シ○調書又ハ申立書アル時  
 書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次ニ原被証人ノ陳  
 述ヲ聽キ且證據物件ヲ被告人ニ示シ辨解ヲ爲



サシム可シ○被告人及ヒ民事擔當人ハ答辨ヲ爲ス可シ

第三百五十三條 檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ○民事原告人ハ要償ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ○被告人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辨ヲ爲スヲ得

第三百五十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人又ハ第二百六十九條ノ規則ニ從ヒ關席裁判ヲ爲スヲ得可キ被告人其呼出ノ日時ニ出廷モサル時ハ關席裁判ヲ爲ス可シ

第三百五十五條 關席裁判ニ關スル第三百三十一條ヨリ第三百三十四條マテノ規則ハ此章

○一被告  
人本  
案ノ  
裁判  
前云  
々即  
ハ公  
管轄  
受違  
又ハ  
公訴  
受違  
理ノ  
申立  
カテ  
爲カ  
スヲ  
云

ニモ亦之ヲ適用ス

第三百五十六條 關席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ左ノ場合ヲ除クノ外刑ノ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲スヲ得○一被告人本案ノ裁判前豫シメ裁判ス可キ事件ヲ申立タル時○二裁判言渡書ヲ本人ニ送達シタル時○三被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルヲ知リタルノ証アル時○第一ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ第二第三ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヲ知リタルヨリ三日内ニ故障ヲ爲スヲ得

第三百五十七條 裁判所ニ於テ事實發見ヲ爲



メ必要ナリトスル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル証人ヲ呼出シ監定人ヲ命シ若クハ臨檢ヲ爲スヲ得但是等ノ處分ヲ爲スニ付テハ第三編第三章ニ定メタル規則ニ從フ○又豫審ヲ經サル事件ニ付テハ豫審判事ヲシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ取調ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムルヲ得

本條ハ輕罪裁判官ニ或ル場合ニ於テ豫審處分ヲ爲スノ權ヲ與フルヲ示ス

第三百五十八條 犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ○又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ

言渡ヲ爲ス可シ○本條ノ場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百五十九條 被告事件違警罪ナル時ハ終審ノ裁判言渡ヲ爲シ且被告人拘留ヲ受ケタル時ハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百六十條 被告事件重罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ若シ豫審ヲ經サル時ハ豫審判事ニ送附スルノ言渡ヲ爲ス可シ但被告人拘留ヲ受ケサル時ハ拘引狀ヲ發ス可シ○訴訟書類及ヒ証據物件ハ檢察官ヨリ之ヲ豫審判事ニ送致ス可シ

第三百六十一條 被告事件豫審ヲ經タル時ハ



之ヲ其裁判所ノ會議局ニ送附スルノ言渡ヲ爲  
 ス可シ○會議局ニ於テハ第二百五十三條第二  
 百五十五條ノ規則ニ從ヒ取調ヲ爲シ被告人ヲ  
 管轄裁判所ニ送附スルノ言渡ヲ爲ス可シ  
 第三百六十二條 會議局ノ言渡ニ因リ事件ヲ  
 受理シタル場合ニ於テ新ナル証憑ヲ發見スル  
 一ナクシテ其事件ヲ重罪ナリトスル時ハ管轄  
 違ノ言渡ヲ爲ス可シ○檢事ハ大審院ニ裁判管  
 轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ

本條ハ先キニ會議局ニ於テ被告事件ヲ輕罪  
 ナリト認メ輕罪裁判所ニ送付セシニ輕罪裁  
 判所ニ於テ新ナル証憑ヲ發見スル一ナク  
 シテ其事件ヲ重罪ナリトスル場合ニ於テハ  
 其事件己ニ會議局ノ言渡ヲ經タルモ一ナ  
 ハ再々ヒ之ヲ會議局ニ送付スヘカラス故ニ

己ム一ヲ得ス管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シトス  
 此場合ニ於テハ檢事ハ裁判ノ途ヲ開カシ爲  
 シメ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ大審院ニ爲ス可

第三百六十三條 前二條ノ場合ニ於テハ會議  
 局又ハ大審院ノ判決アルマテ檢察官ノ請求ニ  
 因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ被告人ヲ其裁判  
 所ノ監倉ニ留置スルノ言渡ヲ爲ス一ヲ得○第  
 二百十條以下ノ規則ニ從ヒ保釋ニ付キ判決ヲ  
 爲ス一ヲ得

第三百六十四條 被告事件輕罪ニシテ且証憑  
 充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ  
 ○被告人禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然  
 保釋責付ヲ取消シタル者トス但上訴中更ニ保

○當然  
 マア  
 ハタ  
 リ



釋ヲ求ムルコトヲ得

第三百六十五條 檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シ控訴裁判所ニ控訴スルコトヲ得○一 檢察官ハ無罪免訴又ハ刑ノ言渡アリタル時但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時○二 被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受テタル時○三 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過スル時○四 檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擬律ハ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キ

○二 被告人ハ  
違警罪ニ付テ  
云々 輕罪ノ刑  
時ナリ

タル時

第三百六十六條 控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日內ニ之ヲ爲スコトヲ得○闕席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直ニ控訴ヲ爲スコトヲ得但第三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日內ニ之ヲ爲ス可シ

第三百六十七條 公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタル時ハ檢察官ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移ス可シ

第三百六十八條 第三百三十九條ヨリ第三百



四十二條マテ及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

第三百六十九條 輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスル時ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百七十條 控訴ノ闕席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ闕席裁判及ヒ其故障ニ付キ定メタル規則ニ從フ

第三百七十一條 檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ヒ控訴裁判

所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヲ得

第四章 重罪公判

第三百七十二條 重罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因リ公訴ヲ受理ス○一豫審判事又ハ輕罪裁判所會議局ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡○二控訴裁判所又ハ大審院ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

第三百七十三條 重罪裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ左ノ區別ニ從ヒ公訴狀ヲ作ル可シ○控訴裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ檢事長公訴狀ヲ作ル可シ○始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ檢事長公訴狀ヲ作リ又



ハ重罪裁判所檢察官ノ職務ヲ行フ可キ檢事ヲ  
シテ之ヲ作ラシム可シ

第三百七十四條 公訴狀ニハ左ノ條件ヲ記載

ス可シ○一被告事件ノ始末及ヒ加重減輕ノ模

様○二被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ

地○三豫審ニ於テ集取シタル原被ノ証憑○四

罪名法律ノ正條及ヒ重罪裁判所ニ移スノ言渡

ノ概畧

第三百七十五條 公訴狀ニハ重罪裁判所ニ移

スノ言渡書ニ記載シタルヨリ以外ノ事件又ハ

被告人ヲ記載ス可カラズ

○集取  
○原被  
○法律ノ正條  
○云フ  
○人トナ  
○刑罰  
○法ノ第何條  
○アタルヘキ

○三同一ノ被告人ニ對シ附帶ニ非サル數箇ノ重

罪ヲ記載シタル場合ニ於テ檢察官ハ各別ニ公

訴狀ヲ作リタル上ニテ各別ニ辯論ヲ爲スヲ

裁判所長ニ請求スルヲ得○裁判所長ハ同一ノ

公訴狀ニ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタ

ル場合ニ於テ其職權ヲ以テ各別ニ辯論ヲ爲サ

シタルヲ得又數箇ノ公訴狀ニ記載シタル事

件ニ付キ同時ニ辯論ヲ爲サシタルヲ得

第三百七十七條 書記ハ被告人出廷ヨリ少ク

トモ五日前ニ公訴狀ノ謄本ヲ被告人ニ送達ス

可シ○被告人數名アル時ハ各別ニ其謄本ヲ送

達ス可シ

○



第三百七十八條 重罪裁判所長又ハ其委任ヲ受ケタ陪席判事ハ公訴狀ノ送達アルヨリ二十四時ノ後書記ノ立會ニ依リ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問シ且ツ辯護人ヲ選任シタリキ否ヲ問フ可シ○若シ辯護人ヲ選任セサル時ハ裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ代理人中ヨリ之ヲ選任ス可シ○被告人及ヒ代理人ヨリ異議ヲ申立ナキ時ハ代理人一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルヲ得○辯護人ヲ選任シタルヨリ三日ノ後ニ非サレハ辯論ニ取掛ルコトヲ得ス

第三百七十九條 辯護人差支アル時若クハ被

○改選先ノキニ

○正當トシ當ト

○履行コトナミ

告人ヨリ之ヲ改選ス可キ正當ノ事由ヲ申立タル時被告人自ラ辯護人ヲ選任スルニ非サレハ前條ノ規則ニ從ヒ裁判所長ヨリ之ヲ選任ス可シ但辯護人ヲ改選シタル時ハ三日間辯論ヲ停止ス可シ

第三百八十條 書記ハ第三百七十八條ノ場合ニ於テ訊問ノ調書ヲ作り辯護人ヲ選任スルニ付キ其式ヲ履行シタルヲ記載ス可シ○辯論中辯護人ヲ改選シ及ヒ辯論ヲ停止シタル時ハ公判始末書ニ其旨ヲ記載ス可シ

第三百八十一條 辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ效ナカル可シ○第三百七



十七條ヨリ第三百七十九條マテノ規則ニ背キタルコアリト雖モ辯論ニ取掛ル前ニ非サレハ被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲スコヲ得ス

○接見  
リメインク

○閲讀  
ヨクミシ

○抄寫  
スキカキ

第三百八十二條 辯護人ハ第三百七十八條ノ處分アリタル後被告人ト接見スルコヲ得○又書記局ニ於テ一切ノ訴訟書類ヲ閲讀シ且ツ之ヲ抄寫スルコヲ得○辯護人ヲ除クノ外何人ト雖モ重罪裁判所ニ移スノ言渡アリタルヨリ裁判言渡アルマテ被告人ト接見スルコヲ得○但被告人現ニ拘留ヲ受クル地ノ裁判所長ヲ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス

第三百八十三條 檢察官及モ民事原告人ノ請

○開廷  
ヒラク

○同上ノ期限

内  
リ即チ開廷

求ニ因リ呼出シタル證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ被告人ニ送達ス可シ○被告人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ同上ノ期限内ニ書記ヨリ之ヲ檢察官ニ送致シ民事ニ付キ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ之ヲ民事原告人ニ送達ス可シ

第三百八十四條 前條ノ規則ニ從ヒ豫メ氏名ヲ通知セサル証人ノ陳述ハ事實參考ノ爲メニ非サレハ之ヲ聽クコヲ得ス但對手人ヨリ異議ヲキコフ申立タル時ハ証人トシテ其陳述ヲ聽クコヲ得



トノ間少クトモ二日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

第三百八十六條 裁判長ハ開廳ノ日ニ當リ公廷ニ於テ陪席判事檢察官ノ面前ニテ開廳ス可キヲ陳述ス可シ但被告人ヲ呼出ス可カラス

第三百八十七條 裁判長辯論二日以上ニ渉ル可シト思料シタル時ハ重罪裁判所々在ノ地ノ裁判所判事一名ヲ以テ豫備陪席判事ト爲スコトヲ得

第三百八十八條 裁判官檢察官及ヒ書記各其席ニ就キタル後即時ニ訊問及ヒ辯論ニ取掛ル可シ

○裁判長ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職

○答辭コタヘ コタヘ  
○齟齬ソゴ ソゴ

○扣席ヒカヘキ

○注意チウイ チウイ

業住所出生ノ地ヲ問フ可シ

○若シ其答辭ト豫審中ノ陳述ト齟齬アリト雖モ公訴狀ニ記載シタル被告人ニ相違ナキ時ハ引續キ辯論ヲ爲ス可シ

第三百八十九條 書記ハ呼出シタル證人ノ氏名ヲ呼立ツ可シ

○其呼立ニ應シタル證人ハ扣席ニ退カシメ陳述ヲ爲スニ當リ順次ニ之ヲ呼入ル可シ

第三百九十條 裁判長ハ書記ヲシテ公訴狀ヲ朗讀セシムルニ付キ注意シテ聽ク可キヲ被告人ニ告知ス可シ

第三百九十一條 裁判長ハ書記前條ノ朗讀ヲ



○確認  
スウ  
ルナ  
○辨明  
ワイ  
ケヒ

終リタル後被告人ヲ訊問ス可シ○被告人豫審  
中ニ白狀シタル事件ヲ確認セス又ハ之ヲ取消  
サントスル時ハ其事由ヲ辨明セシム可シ○被  
告人ノ白狀アリト雖モ仍ホ其取調ヲ爲サ、ル  
可カラス

○反証  
証據  
ノ

第三百九十二條 裁判長ハ前條ノ訊問ヲ終リ  
タル後証憑ヲ差出スニ從ヒ其証憑ニ付キ辨解  
ヲ爲シ且自己ノ利益ト爲ル可キ反証ヲ差出ス  
ヲ得可キヲ被告人ニ告知ス可シ  
第三百九十三條 裁判長ハ原告証人陳述ヲ終  
リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フ可シ  
第三百九十四條 証人ハ陳述ヲ爲シタル後其

扣席ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退廷ノ允許ヲ得  
タル時ハ此限ニ在ラス○陪席判事檢察官被告  
人及ヒ民事原告人ハ更ニ證人ヲ訊問スルヲ又  
証人ヲシテ他ノ證人ト對質セシムルヲ請求  
スルヲ得○裁判長ハ職權ヲ以テ前項ノ處分ヲ  
爲スヲ得

第三百九十五條 裁判長ハ證人愛憎畏懼ノ念  
ヲ生シ被告人ノ面前ニ於テ充分ナル陳述ヲ爲  
スヲ得サル可シト患料シタル時ハ檢察官民  
事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其證人  
ノ陳述中被告人ヲ退席セシムルヲ得○裁判  
長ハ證人陳述ヲ終リタル後再ヒ被告人ヲ公廷



ニ呼入レ其陳述シタル條件ヲ告知シ且被告人ニ意見アル時ハ之ヲ申立シム可シ

第三百九十六條 裁判長ハ第三百條ニ定メタル手續ノ終リタル後公訴ニ付キ辯論ノ終結シタルヲ言渡ス可シ

第三百九十七條 檢察官及ヒ被告人ハ辯論中ニ發見スル條件ニ付キ豫審ヲ求ムルヲ得裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシム可シ○第三百五十七條第一項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百九十八條 辯論終結ノ言渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述ス可シ○被告人及ヒ辯護人ハ檢察官ノ意見其當ヲ得サルヲ辯論スルヲ得

第三百九十九條 前條ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辨ヲ爲スヲ得○檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ○裁判所ニ於テハ私訴ノ辯論ヲ延期スルヲ得但閉廳前之ヲ判決ス可シ

第四百條 被告事件重罪ニシテ且證憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ○又第



二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ  
言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

第四百一條 犯罪ノ證據充分ナラサル時ハ無  
罪ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ○又原  
被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ  
裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百二條 辯論中公訴狀ニ記載シタル事件  
ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合  
ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開  
キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシ  
メ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ  
裁判ス可シ

第四百三條 檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁  
判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得  
第四百四條 關席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記  
ヲシテ公訴狀及ヒ必要ナリトスル豫審書類ヲ  
朗讀セシメ又原被證人ノ陳述ヲ聽ク可シ○檢  
察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原  
告人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ○民事擔  
當人ハ答辨スルコトヲ得

第四百五條 關席裁判言渡書ハ檢察官其他訴  
訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達  
ス可シ

第四百六條 關席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シ



テハ檢察官ニ非サレバ上告ヲ爲ス可キ得ル  
 民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言渡  
 ニ對シ上告ヲ爲ス可キ得ル  
 第四百七條 關席裁判ニ因リ刑言渡ヲ受ケ  
 タル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ  
 故障ヲ爲ス可キ得但捕ニ就キタル時ハ未日內  
 ニ故障ヲ爲ス可シ  
 第四百八條 故障又申立ハ關席裁判ヲ爲シタル  
 重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ○重罪裁判所ニ  
 於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス  
 可シ○其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時  
 ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ

裁判ヲ爲ス可シ

第四百九條 關席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所  
 閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障  
 ノ申立ヲ爲ス可シ○控訴裁判所ニ於テ其故障  
 ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則  
 ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ク可キノ言  
 渡シヲ爲ス可シ

大審判官ノ職權



第五編 大審院ノ職務

大審院ノ職務ニ付特ニ此一編ヲ設クルモノ  
ハ其職務重且大ニシテ其性質他ノ諸裁判所  
アル異ナル所

第一章 上告

上告ハ上訴中最モ後ノ方法ニシテ外ニ上訴  
スルノ路ナキ時ニアラサレハ之ヲ爲ス  
得ス故ニ上告ヲ爲スヲ得ヘキ場合ハ終審  
判決ニ對スル上訴又ハ始審裁判所ノ言渡  
付キ爲シタル控訴ノ判決ニ對スル上訴等ナ

第四百十條 檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公

判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲ス

得○一法律ニ背キ忌避ヲ申立テ認可セザル

時○二裁判所ノ構成規則ニ背キタル時○三法

律ニ背キ管轄違又ハ管轄ナリトノ言渡若クハ

○構成規則ニ假  
條ハ第七十八條  
條ニ定メタル員  
判官ノ員數ヲ裁

爲シタル時又  
ハ第四十七條  
ニ定メタル規  
則ニ違ヒ其規

判ニ干預シ其  
ル時等預シ其  
是ナリ等預シ

○又ハ管轄ナ  
リトノ言渡律

ノ種類ハ犯罪  
ノ身及ヒ被害  
其管轄ニ付各

然アルニ其管  
判所ニ於テ裁

管轄ナリトノ  
言渡律

ノ種類ハ犯罪  
ノ身及ヒ被害

其管轄ニ付各  
判所ニ於テ裁

然アルニ其管  
判所ニ於テ裁

管轄ナリトノ  
言渡律

ノ種類ハ犯罪  
ノ身及ヒ被害

其管轄ニ付各  
判所ニ於テ裁

然アルニ其管  
判所ニ於テ裁

管轄ニ非サル裁判所ニ事件ヲ移スツ言渡アリ  
タル時○四法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ  
背キタル時又ハ無効ノ記載ナキ規則ニ背キタ  
ルニ因リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ  
認可セザル時○五法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又  
ハ受理セザル時○六法律ニ定メタル場合ニ於  
テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時○七裁判所ニ於  
テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又  
ハ職權ヲ以テ判決スルヲ得可キ場合ヲ除ク  
ノ外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタ  
ル時○八裁判言渡シテ公行セス又ハ傍聽ヲ禁  
ズルノ言渡ナクシテ訊問及ヒ辯論ヲ公行セザ



ル時○九事實及ヒ法律ニ依リ言渡シ理由ヲ付  
セス又ハ其理由ノ齟齬アル時○十擬律ノ錯誤  
アル時○十一越權ノ處分アル時

第四百十一條 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル  
場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規  
則ニ背キタルコト又ハ犯罪ノ場所ニ因リ管轄違  
アリト雖モ上告ヲ爲スコトヲ得ス

免訴ノ言渡又ハ無罪ノ言渡ノ如キハ皆ナ被  
告人ノ利ナシ言渡ナルヲ以テ縱令ヒ如何ナ  
ル不規則アルモ上告ヲ許サズ又タ犯罪ノ場  
所ニ因リ管轄違アリト雖モ毫モ被告人ノ利  
害ニ關スルコトナケレハ  
上告ヲ許サルナリ

第四百十二條 民事原告人被告人及ヒ民事擔

當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對  
シ第四百十條ニ定メタル原由ニ付キ上告ヲ爲  
スコトヲ得

本條訴訟關係人ノ上告ヲ許シ檢察官ニ上  
告ヲ爲スコトヲ許サハルハ檢察官ハ私訴ニ付  
キテハ利害ニ關係  
ナキナリ

第四百十三條 上告ノ對手人ハ大審院ノ判決  
アルマテ何時ニテモ附帶ノ上告ヲ爲スコトヲ得

○大審院檢事  
長モ亦附帶云  
々大審院上告ハ  
理大審院上告ハ  
故ナル所ナ

○大審院檢事長モ亦附帶ノ上告ヲ爲スコトヲ得  
第四百十四條 上告ノ期限ハ三日ナリトス但  
豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算  
シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス  
第四百十五條 豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上



告アリタル時ハ拘留保釋責付釋放及ヒ放免ノ  
 言渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス  
 第四百十六條 上告ヲ爲サントスル者ハ其申  
 立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ○上告  
 ノ申立書ハ其申立アリタルヨリ二十四時内ニ  
 書記ヨリ之ヲ對手人ニ送達ス可シ  
 第四百十七條 上告申立人ハ其申立ヲ爲シタ  
 ルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ  
 差出ス可シ○書記ハ上告趣意書ヲ受取りタル  
 ヨリ二十四時内ニ之ヲ對手人ニ送達ス可シ  
 第四百十八條 對手人ハ上告趣意書ヲ受取  
 タルヨリ五日内ニ答辨書ヲ原裁判所ノ書記局

經過  
 コス  
 スギ

行差出ス可シ○書記ハ其答辨書ヲ受取タル  
 ヨリ二十四時内ニ之ヲ上告申立人ニ送達ス可  
 シ  
 第四百十九條 檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣  
 意書又ハ答辨書ハ一通ヲ作り一通ヲ大審院ニ  
 差出シ一通ヲ對手人ニ送達ス可シ○私訴公裁  
 判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出ス可キ上告  
 趣意書又ハ答辨書ニ付テモ亦同シ  
 第四百二十條 書記ハ前數條ニ定メタル期限  
 經過シタル後速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其  
 裁判所ノ檢察官ニ差出ス可シ○檢察官ハ其書  
 類ヲ五日内ニ大審院檢事長ニ差出シ且意見ヲ



○簿册メテヤウ

○院長ノ大審官院

フナ云

○登記セカキノ

○該相當ス

○自ガ分

○所屬ツク

○專任判事ツモ

○取調ベル事件事

○取調ベル事件事

○取調ベル事件事

ル時ハ之ヲ添フ可シ○檢事長ハ上告事件ヲ刑  
事局ノ簿册ニ登記ス可キヲ院長ニ請求ス可  
シ

第四百二十一條 上告申立人及ヒ對手人ハ代  
言人ヲ差出ストヲ得○重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケ  
タル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ重罪ノ刑ニ  
該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ  
刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ選任セサ  
ル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言人中  
ヨリ之ヲ選任ス可シ

第四百二十二條 院長ハ刑事局判事中ニテ專  
任判事一名ヲ命ス可シ○專任判事ハ一切ノ書

○擴張

○開廷

類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ但自己ノ意見  
ヲ付ス可カラス  
第四百二十三條 上告申立人及ヒ對手人ハ專  
任判事ノ報告書ヲ差出スマテハ大審院書記局  
ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書ヲ差出  
スヲ得○專任判事報告書ヲ差出シタル後辯  
明書ヲ差出シタル時ハ之ヲ其報告書ニ添フ可  
シ  
第四百二十四條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開  
廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代言人ニ  
報知ス可シ  
第四百二十五條 開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專



朗讀

在判事其報告書ヲ朗讀ス可シ

檢事長及ヒ代

言ハハ略其趣意ヲ辯明スヘシ

私訴ノ上告ニ

付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第四百二十六條

上告申立入又ハ對手

代理人ヲ差出サ、ル時ハ其儘ニテ判決ヲ爲ス

可シ

第四百二十七條

大審院ニ於テ上告

理由ヲ

シトスル時ハ之ヲ棄却スル

言渡ヲ爲ス可シ

第四百二十八條

大審院ニ於テ豫審又ハ公判

言渡ニ對スル上告ニ付破毀

少原由アリト

判時ハ其言渡ノ全部ヲ破毀

シ其事件ヲ他ノ裁

判所ニ移ス可シ但後

數條ニ記

載シタル場合ハ此限ニ

アラス

大審院ノ律

第四百二十九條

擬律ノ錯誤若クハ法律ニ背

理由

判決

ケリ

ノイ

破毀

一且言裁

於テ言渡

ル言渡

條理ノ書

ハ是レト

云不

ヒ條

レ不

タニ

ナル

テ

ハ

ナ

ホ

ス

コ

ナ

シ

ノ

記

載

ナテ裁判  
ホスコナシ  
セカキ  
ルキノ

○豫審又ハ公  
判ノ手續規則  
ニ背キ云々例  
ハ書記ノ立會  
ナシテ豫審會  
如分是レナリ  
處キ是レナリ  
如分是レナリ

職シタル場合ハ此限ニアラス  
大審院ノ律  
第四百二十九條  
擬律ノ錯誤若クハ法律ニ背  
キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル  
因テ原裁  
判言渡ヲ破毀シタル時ハ其事件ヲ移スコナク  
大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ  
第四百三十條  
豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背  
キタルコトアリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ボ  
セタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコナク  
止テ其手續ヲ破毀ス可シ  
第四百三十一條  
豫審又ハ公判ノ言渡ノ幾分  
ニ對シテ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關  
係アリタル時ハ大審院ニ於テ其上告係部



○原裁判所  
 最初裁判ノ言  
 渡ナシタル  
 裁判所  
 最近ノ  
 接シ  
 示シ  
 定示  
 單ニ  
 〇

分テ破毀シ法律ニ從テ直チニ相當ノ裁判言渡  
 ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ  
 第四百三十二條 大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ  
 破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判  
 所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可  
 第四百三十三條 大審院ニ於テ破毀シタル事  
 件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キ時ハ  
 原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示ス  
 可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所  
 ニ移ス可シ  
 第四百三十四條 法律ニ係ル大審院ノ判決ハ

○所爲  
 〇定期内  
 内ル期限

○非常上告  
 上告ノ期限  
 過スル期限  
 故スル  
 一得

確定ノ者トス○大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁  
 判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ  
 更ニ上告ヲ爲スコトヲ得  
 第四百三十五條 法律ニ於テ罰セラル所爲ニ  
 對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言  
 渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナク  
 シテ其裁判言渡確定シタル時ハ大審院檢事長  
 ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニ  
 テモ非常上告ヲ爲スコトヲ得○非常上告アリタ  
 ル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チ  
 ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ  
 第四百三十六條 左列ノ場合ニ於テハ大審院ハ



大審院ノ裁判官  
 大審院ニ於テ前數條ニ定メ  
 立タル條件ニ付テ判決ヲ爲サ  
 ル時  
 三同一  
 次裁判言渡ニ付キ二個ノ條件  
 齟齬シタル時  
 第四百三十七條  
 哀訴ヲ爲  
 サン大審院  
 者ハ裁判  
 言渡アリタルヨリ三日内ニ書  
 記局ニ其申立  
 ナ爲ス可シ  
 書記ハ申立書  
 法受取ル  
 タルヨリ  
 三日内ニ之ヲ  
 對手人ニ送達  
 シ對手人ハ同  
 期限内ニ其答  
 辨書ヲ差出ス  
 可シ  
 大審院ニ於  
 テハ通常上告  
 規則ニ從ヒ哀  
 訴ノ判決ヲ爲  
 ス

裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟關係人  
 哀訴スルコトヲ得  
 一 大審院ニ於テ前數條ニ定メ  
 タル式ヲ履行セサル時  
 二 訴訟關係人ヨリ申  
 立タル條件ニ付テ判決ヲ爲サ  
 ル時  
 三 同一  
 次裁判言渡ニ付キ二個ノ條件  
 齟齬シタル時  
 第四百三十七條  
 哀訴ヲ爲  
 サン大審院  
 者ハ裁判  
 言渡アリタルヨリ三日内ニ書  
 記局ニ其申立  
 ナ爲ス可シ  
 書記ハ申立書  
 法受取ル  
 タルヨリ  
 三日内ニ之ヲ  
 對手人ニ送達  
 シ對手人ハ同  
 期限内ニ其答  
 辨書ヲ差出ス  
 可シ  
 大審院ニ於  
 テハ通常上告  
 規則ニ從ヒ哀  
 訴ノ判決ヲ爲  
 ス

○再審ノ訴  
 裁判官ノ誤  
 非マシ  
 常法  
 罪ノ重  
 刑ノ輕  
 罪ノ重  
 刑ノ輕  
 言渡ニ對  
 シハ控  
 訴ハ行  
 ハル  
 是等  
 既ナ  
 裁サ  
 ス  
 上  
 告  
 事  
 實  
 誤  
 後  
 其  
 事  
 實  
 誤  
 リ  
 再  
 審  
 ナ  
 リ  
 再  
 審  
 ナ  
 リ  
 再  
 審  
 ナ  
 リ  
 再  
 審  
 ナ  
 リ

第四百三十八條 大審院ノ裁判言渡ハ其言渡  
 アリタルヨリ三日間又哀訴アリタル時ハ其判  
 決アルマテ執行ヲ停止ス  
 第二章 再審ノ訴  
 第四百三十九條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ  
 重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲  
 メ之ヲ爲スコトヲ得但裁判確定ノ後ニ非サレハ  
 之ヲ爲スコトヲ得ス  
 一 一人ヲ殺シタル罪ニ付キ  
 刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレ  
 タリト認ラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既  
 ニ死去シタルヲ確証アリタル時  
 二 同一ノ事  
 件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケ



○但裁判確定

ノ後ニ非ザレハ云々判是確定裁  
前ハ外ニ途上訴  
ナリ故

タル者アリシ時○三犯罪アル以前ニ作りタル  
公正ノ證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ  
証明シタル時○四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因  
リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時○五公正  
ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコ  
ト証明シタル時

○二同一ノ事

件云々一例ヘハ  
犯ト罪ニ付キ甲  
者ト又ハ者トハ  
正犯又ハ從犯  
ニアラスハテ  
別ニ重罪又ハ  
輕罪ノ刑又ハ  
渡罪ヲ受ケタ  
ルキヲ云フ言

本條ハ再審ノ要件トナシ  
ノ原由ト要件トナシ  
第三犯罪アル以前云々即チ犯罪ノ日時ニ當  
リ其場所ニアルラスシテ他ノ地ニ在リタルコ  
ト証明シタル時○四被告人ヲ陷害シタル罪ニ  
於テ人ヲ殺シタル罪アリトシテ今日甲ノ言  
渡ヲ受ケタル然レモ其素ヨリ無實ノ罪ナレ  
ト殺サハル証據ナキヲ以テ已ニ裁判確定セ  
リ後日ニ至リテ全ク人ヲ殺シタル時云フ

トキ罪ト重キハ  
罪ニ付キ重キハ  
云フコトナリ  
○偽造  
○公正

○消滅  
今禁錮ノ刑ニ  
處セラレタル者  
ハ其刑期ヲ終  
ヘ者

第四百四十條 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得可キ者  
左ノ如シ○一刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢  
察官○二刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄ス  
ル控訴裁判所ノ檢事長○三大審院檢事長但司  
法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可  
シ○四刑ノ言渡ヲ受ケタル者○五刑ノ言渡ヲ  
受ケタル者死去シタル時ハ其親屬  
第四百四十一條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタル  
ニ拘ハラズ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得  
第四百四十二條 再審ノ訴ヲ爲サントスル者  
ハ其趣意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ證據書  
類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ



○原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ  
 之ヲ大審院檢事長ニ差出ス可シ○原裁判所ノ  
 檢察官及ヒ控訴裁判所檢事長自ラ再審ノ訴ヲ  
 爲サントスル時ハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ  
 差出ス可シ

第四百四十三條 大審院ニ於テハ檢事長ノ請  
 求ニ因リ速ニ專任判事一名ヲシテ其取調ヲ爲  
 シ報告書ヲ差出サシム可シ

第四百四十四條 大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ  
 閣キ刑事局判事全員會議局ニ集會シ專任判事  
 ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲  
 ス可シ

○閣キ  
 ○全員  
 ○ラノ  
 ○マコ

○同等  
 ○所原  
 ○輕裁  
 ○罪判  
 ○ハ

第四百四十五條 大審院ニ於テ再審ノ原由ア  
 ルヲ認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ公訴  
 及ヒ私訴ニ付再審ヲ爲ス可キヲ言渡シ其事  
 件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可  
 シ○其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ  
 規則ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

第四百四十六條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ  
 爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由ア  
 ルヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移  
 スヲナク原裁判言渡ヲ破毀ス可シ

第四百四十七條 再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ言  
 渡アリタル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言











所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ヲクシテ本案ニ付キ辨論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スヲ得ス

第四百五十六條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書ニ通テ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ○書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ答辨書ヲ差出スヲ得

第四百五十七條 大審院ニ於テハ第四百五十一條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ

○執行  
コナリ  
フオ

停止ス

第六編 裁判執行復権及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第四百五十九條 重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス

第四百六十條 死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ス可シ

○司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シ

第四百六十一條 死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直ニ之ヲ執行ス可シ

第四百六十二條 刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察



○沒收物品ホツシユツツビンリト

ナアケルシ

○徵收チヒツシユツトツト

○破壞ハツクワイスコハ

○廢棄ヘイキルステ

○細目サイモクキコマデカ

ウ

官又ハ大審院ヨリ命令ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ○罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徵收ス可シ○破壞又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ズ可シ

第四百六十三條 死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作り刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シ○其他刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四百六十四條 裁判言渡確定シ又ハ關席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所

○疑義ギギガウヒタ

ノ書記既決犯罪表ヲ作り左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ○一犯人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地○二罪名○三再犯○四裁判言渡ヲ爲シタル年月日○五對審裁判又ハ關席裁判

第四百六十五條 既決犯罪表ハ二通ヲ作り一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ○違警罪ノ既決犯罪表ハ一通ヲ作り其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

第四百六十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ



○認定  
コト  
サダメル

異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ  
 第四百六十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ○裁判所ニ於テ本犯ナルコトヲ認定スルコト能ハサル時ハ事實参考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被ノ證人ヲ呼出スコトヲ得  
 第四百六十八條 前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ

○但其言渡ニ

對シ云々其是判  
 決ノ性質通判  
 ノ決ト異ナ

對シテハ上訴ヲ許サス  
 第四百六十九條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第二章 復權

公權ヲ回復セシムルノ方法ハ法律上並ニ天皇陛下ノ恩典ナリトス而シテ本章ニハ其出願並ニ之ヲ許スト  
 否トノ手續ヲ示ス

第四百七十條 復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ爲ス可シ○復權ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ差出ス可シ

○復權ニ  
 條ニ從ヒ公權  
 ナル者ハ刑ノ  
 悔善ヲ行ク中  
 悔善ヲ行ク中  
 以テ失フルハ  
 ハチ以前ノ利  
 シ權利ヲ回復



○辨濟ハクサイ スマ  
 ○過去カクゴ カマ  
 ○生計キケイ シク  
 ○品行ヒンカウ ナオ  
ヒコ

第四百七十一條 復権ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ○一裁判言渡書ノ謄本○二主刑ノ満期特赦又ハ期滿免除ト爲リタルヲ証明スル書類○三假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ証書○四賠償及ヒ裁判費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタルノ証書○五過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

第四百七十二條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

第四百七十三條 檢事長ハ更テニ必要ノ取調ヲ爲シ復権ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ

○上奏シヤウソウ 申上子ルヘ  
 ○勅裁チヨクサイ 裁天子ノ

之ヲ司法卿ニ差出ス可シ

第四百七十四條 司法卿ハ復権ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ其願ヲ允許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

第四百七十五條 勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ因リ復権ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通知ス可シ○前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スヲ得ス○更ニ復権ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ



○裁可  
シユル

○記入  
イカキ

○特赦  
格別  
ヲ云  
テ刑  
免ス  
ル執  
行

第四百七十六條 復權ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ送致ス可シ○又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ下付ス可シ○又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入ス可シ

第三章 特赦

特赦ヲ與フルハ皇帝ノ特權ニシテ刑ノ言渡確定シタル後其執行ヲ免スルモノナレトモ刑ノ言渡ヲ消滅スルモノニテ論ス而シテ特赦ヲ免罪ノ犯スルハ再犯ヲ以テ論ス而シテ特赦ヲ免罪許スル場合ハ多クハ法律上ノ減輕ヲナスモ尙ホ其刑ノ苛酷ニ涉リ且ツ憫諒ス可キ者トモ思料シテタル

○情狀  
サア  
マリ

○具シ  
セカ  
キノ

○經由  
手  
ルヲ

○意見書  
ヲオ  
クモ

ガキ

○停止  
メト  
ルハ

第四百七十七條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルヲ得○監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ但檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ○特赦ノ申立アリタル時ハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添へ上奏ス可シ

第四百七十八條 司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スヲ得○死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第四百七十九條 特赦ノ申立棄却アリタル時



ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ檢察官ニ其旨ヲ通知ス可シ  
第四百八十條 特赦ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ檢察官ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

註釋

- 題字二葉第一行 「能」ノ下「無」ヲ脱ス
- 例言一葉第三行 「職」ヲ「ハ」職ヲノ誤
- 同葉第八行 「註釋」ハ「註釋」ノ誤
- 同葉第十一行 「註釋」ハ「註釋」ノ誤
- 同葉第十二行 「徒」ヲ「ハ」徒ヲノ誤
- 本文三葉註第二行 「治安裁判所權限ノ金高」ハ「其多寡」ノ誤
- 同十二葉第九行 「申立」タル「ハ」申立ツル
- 同十六葉第九行 「爲」シタ「ノ」下「ル」ヲ脱ス
- 同三十葉第六行 「差出」シ「ノ」下「タル」事件表ヲ同時ニ檢事長ニ



差出「母脫錄」車具ニ  
 ○本文三注五葉第一行 「事件表」ノ「止」決「ヲ」脱ス  
 ○同葉第七行此「行」 「抄」爲「ソ」下「夕」ヲ脱ス  
 ○同葉第八行 「ヲ」定「ハ」ヲ移「ノ」誤  
 ○同三十七葉第三行 「罰」ヲ「ハ」罪「ヲ」誤  
 ○同四十八葉註第六行 「守」保「以」下「護」ヲ脱ス  
 ○同七十葉第十四行 「心」要「氣」必要「抄」誤  
 ○同九十七葉第十行 「對」シ「テ」抄「下」ハ「ヲ」脱ス  
 ○同百九葉第十行 「現」行「ハ」銀行「ノ」誤  
 ○同百三十八葉第二行 「三」ノ「ハ」三「ノ」誤  
 ○同百三十六葉第八行 「陳」述「書」ヲ「ハ」陳述書「ハ」  
 ○同百三十四葉第二行 「辨」論「ハ」辨論「ノ」誤

明治十五年一月十七日御届  
 同 年三月 刻成出版

定價金壹圓五拾錢

注解人

植田小次郎

大阪府平民

出版人

花井卯助

同 府平民

東區安土町四丁目拾壹番地

賣捌人

石田忠兵衛

西京二條柳馬場角

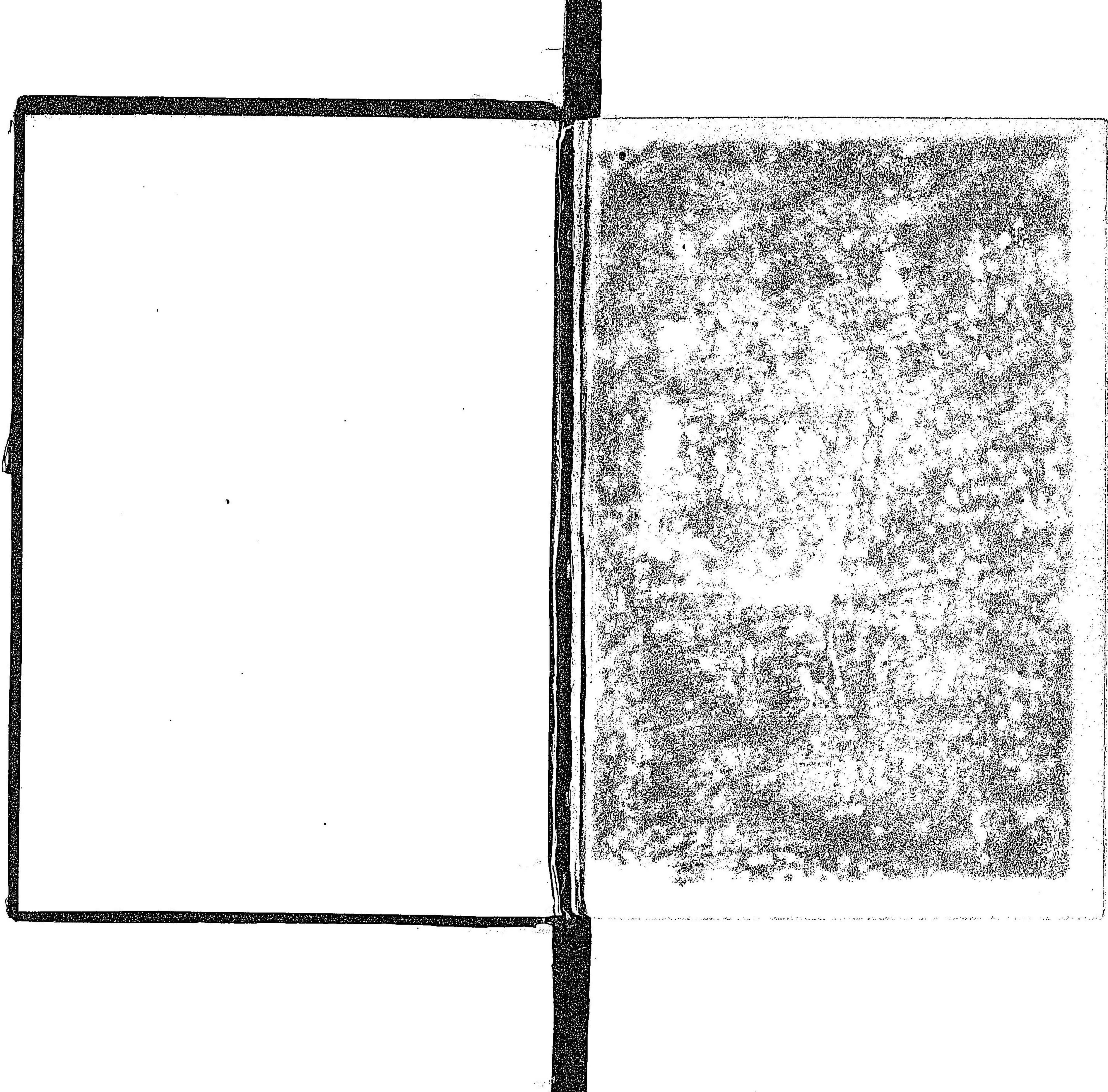




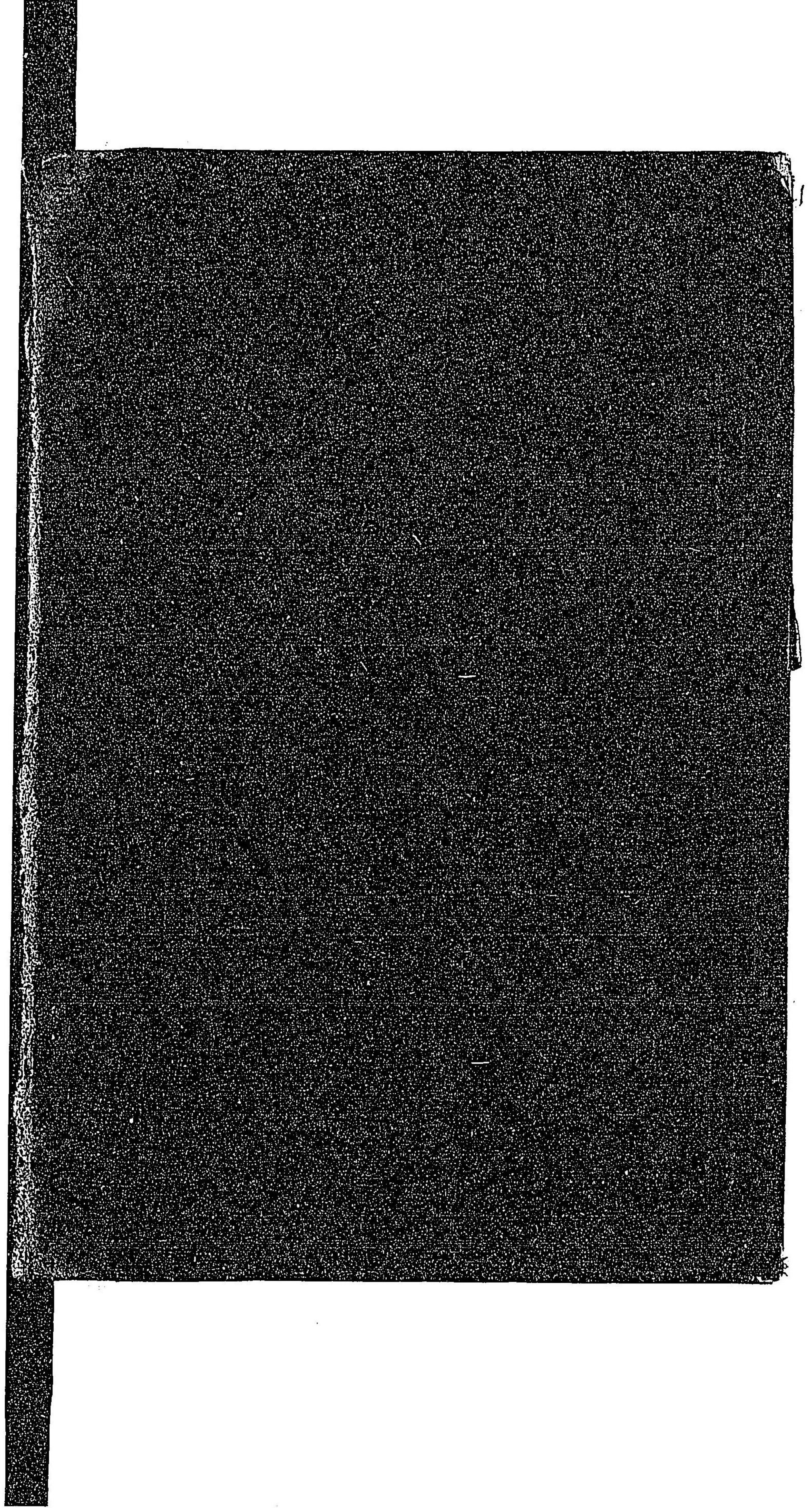














館書圖京東	
函五四	門新
架一	部一一
號	類

035871-000-2

特14-229

刑法治罪法註釈大成

植田 小次郎/著

M15

BBP-0457





